



慶應義塾大学ビジネス・スクール

(株)ライブドア

---ベンチャー企業とマザーズ市場---

ライブドア、近鉄球団買収オファー

㈱ライブドアの堀江社長は2004年6月30日、プロ野球「大阪近鉄バフファローズ」を買収したいとマスコミに発表した。買収金額は10億円－30億円を予定し、さらに次のように語った¹。

「ぜひ近鉄球団を売っていただき、球界の発展のお役に立ちたい。---我々が培ってきたベンチャー・ビジネスのノウハウを生かしたい」

「毎年約40億円の赤字に苦しむ近鉄を支えられるのか? 野球協約に定められた参加料・年30億円は支払うのか?」との質問にもこう答える。

「現状、現金は512億円ある。5年や10年で球団を手放さなければいけないような会社ではない」(同社は2004年4月に公募増資で358億円を調達した)

「早く独立してやっていける経営をしたい。親会社からの広告宣伝費に頼らなければならぬような状況では、オーナーチェンジや合併を繰り返すことになる」

「球団株式の公開や、選手へのストックオプション(自社株購入権付与)を与えることで、組織を活性化させたい。選手の年俸を一律に下げたりするつもりはない」

また「新監督は?」との質問に。

「まだわからない。原(辰徳)さんかな」

堀江社長の目標は「インターネット界のコングロマリット(複合企業)」である。次々と株式交換などにより買収を続け、経営は「速さ」と「効率」を最も重視しているという。ただ「能力のないやつは自然と辞める」と言ってはばかりで、産業界では異端児扱いされてきた。

この買収表明を「ライブドアの売名行為」と受け取る向きが多かったが、株式市場は「売名行為を好感し」(市場関係者の言葉)、株価は5日連続でストップ高となった。

インターネットとの出会いとマザーズ上場

中学時代からパソコン・オタクだった堀江貴文は、東京大学文学部時代にはソフト開発のア

¹日本経済新聞 2004.7.5、サンケイスポーツ 2004.7.1 などより

このケースは慶應義塾大学ビジネススクール山根 節が、公表資料をもとにクラス討議の資料として作成した。

(2004年7月)